

長洲町は4月から、庁舎1階に外国人専用の相談窓口を設けた。県観光交流政策課によると、県内で外国人向けに窓口を開設しているのは熊本、天草両市のみで、町村では長洲町が初めて。町内には複数の大手メーカーが立地しており、外国人労働者も働きやすい町づくりを目指す。

町在住の外国人は約600人。製造業に加えて農業関連の技能実習生も年々増加しており、5年前から倍増した。外国人の割合は町民の3・5%（2020年1月）に達し、県内でも最高水準。こうした状況を受けて、生活全般の行政手続

役場に専用相談窓口



外国人専用窓口で対応に当たるベトナム人のファン・ミン・ヒエウさん＝長洲町

外国人も住みやすい町へ

きなどを支援する窓口設置を決めた。

窓口は役場の出入り口付近に設置。金魚みこしを展示していた住民になじみのスペースに、200万円かけて2部屋を設けた。外国人の約7割を占めるベトナム人への対応を見込み、英語も話せる同国出身の留学生ファン・ミン・ヒエウさん（23）＝崇城大3年＝が週3日（曜日は不定）、待機する。

これまでに納税手続きや融資など2件の相談に対応。担当課との折衝を手伝ったファンさんは、「自分はある程度日本語を勉強し

てから来日したが、それでも生活に慣れるまで大変だった。同じ外国人として少しでもサポートしたい」と話す。

町は今後、相談業務以外にも町民に配布する広報チラシのベトナム語訳や、企業や行政区に直接出向いて外国人の困り事を聞き取る計画。町まちづくり課は「コロナ禍で帰国できずに精神的な不安を抱えている人も多い。ファンさんに協力してもらいながら、外国出身者の困り事に素早く対応し、解決できる体制を整えていきたい」としている。

（樋口琢郎）